

【低カルシウム血症編】 (20分程度)



https://youtu.be/ZKJh_36x5cs

乳量増加による潜在性の低カルシウム血症は多くの経産牛で見られます。

カルシウムの給与について特に分娩前後の乾乳期について話しています。

分娩から搾乳という劇的な変化に血中カルシウム濃度は総動員しますが、そのための準備ができていないかどうかで、潜在性低カルシウム血症もある程度予防することが可能です。

特に乾乳期には牛はアルカリ性に傾きやすくカルシウムの吸収が難しい時期でもありますカルシウムの吸収経路や濃度をもう一度見直してみましょう。

カルシウムとリンとのバランス

カルシウムの吸収について
カルシウムの吸収は主に腸管から吸収

<2つの吸収パターンがある>

① 受動輸送・小腸上部(特に十二指腸)で吸収

② 受動輸送・小腸下部で吸収

① 受動輸送・小腸上部(特に十二指腸)で吸収
血中のカルシウムが低い場合、受動輸送が優位になる。乳牛中のカルシウムを多くすることで血中のカルシウムを下げ、受動輸送も使うことで吸収を早めようと考えられている。

② 受動輸送・小腸下部で吸収